

オールラウンド・マテリアルの登場と歯科技工
—咬合・審美・インプラントでのコバルト・クロムの有効性—

Japan Craft.JPI株式会社
代表取締役 重村 宏

近年の歯科補綴を取り巻く環境は、多くの材料やシステムが新たに登場し、いささか混乱の体を示しているように思える。それらの新しい材料やシステムは、今までの考え方や操作術式では扱いきれない問題を抱えていることが多く、不確かな情報なども相まって技術者を悩ませることになっている。しかし、最も技術者を不安にするものは、さまざまな負担を要求する新しいシステムが、次世代の歯科補綴に適応して長期わたって価値を生み続けるのかということではないだろうか。混乱と不安の中にある近年の歯科補綴にあつて、徐々に注目を集め評価を上げてきている素材としてコバルト・クロム合金があげられる。従来からこの合金は、クラウンブリッジには適合性や加工性において不向きという評価が大勢であった。しかし、昨今のプレシヤス合金やセミプレシヤス合金の異常な高騰は、新たな素材の開拓を後押ししコバルト・クロム合金の可能性の追求に拍車がかかったのである。

このような中で歯科補綴物の骨格を形成するフレームワークにとって最も有効な素材は何かを、適合性や強度、生体親和性、コストパフォーマンスから検討する必要があると思われる。その上でコバルト・クロム合金がクラウンブリッジのみならず「咬合治療」や「インプラント治療の応用」に応用した場合、さらに有効性を高めることを述べてみたい。

内容

1. コバルト・クロム合金のクラウンブリッジへの可能性
2. インプラント上部構造の新しい作製システム
3. 新しい咬合治療「画像診断」の必要性とコバルト・クロム合金の応用
4. 症例提示

重村 宏 (内容は適当に省いてください)

略歴

1978年 大阪歯科大学歯科技工士専門学校卒業
1978年 新阪急ビル野口歯科勤務
1984年 貴和会歯科診療所勤務
1988年 J I A D S 研修会講師
1998年 Japan Prosthetic Dental Laboratory開設
2004年 筑波大学歯学部 非常勤講師
2005年 東北大学歯学部 非常勤講師
2005年 J P I (Japan Prosthetic Institute) 講師
2007年 埼玉歯科技工士専門学校 非常勤講師
2014年 Japan Craft.JPI株式会社設立
現在 日本顎咬合学会 会員 日本口腔インプラント学会 会員

主な論文

咬合に関する私たちの考えと臨床システム 補綴臨床 1987.11
模型上と口腔内とでの誤差をいかに少なくしてゆくか、「オクルージョンの実際」 歯科技工別冊 1988.12
補綴物におけるクラウンコントゥア QDT 1992.10~12
インプラント上部構造におけるアクセスホールの処理 QDT 1993.6~7
遠心鑄造の可能性と限界 QDT 1995.2
インプラント上部構造における臨床的基準 QDT 1995.3~4